

## I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

### 1. 建学の精神・大学の理念

新潟国際情報大学（以下、「本学」という。）設立発起人代表の小澤辰男（初代理事長、元衆議院議員）は「教育は国の基」との考えから、新潟市が環日本海の拠点都市を目指すための必須条件の一つとして、国際化時代に対応できる人間を育成することである、との信念を基本に、初代学長となった内山秀夫の「自主性を重んじ、公共性を高める」（私立学校法第1条）との思いを重ねあわせ、大学設立に向け建学の精神を定めた。

#### ・建学の精神

ここに集う私たちは

- (1) 平和の理想を高く掲げ、平和への意思をみがく人間であることを信ずる。
- (2) その理想と意思は、国境を越えた人類愛と開かれた知性によって支えられることを信ずる。
- (3) その人類愛と知性は、歴史を創造する事業に参加する私たちの責任に属することを信ずる。

この建学の精神を基に、大学の基本理念として以下を定めた。

#### ・大学の理念

- (1) 日本文化と異文化との違いを理解し、国や地域を越えて情報文化に貢献できる人材を育成する。
- (2) 情報社会を先導し、国・地域・人間の文化を尊重しつつ、国や地域を越えて人類の福祉向上に貢献する。

こうした建学の精神、基本理念を核として、まちがいなく訪れる本格的な国際化・情報化時代に対応すべく、新潟県、新潟市が環日本海諸国との交流の歴史の中で培ってきた地理的・文化的特殊性を活かしながら、日本海側の中核都市として発展していくことに貢献できる人材及び地域文化の向上に寄与する人材を育成するために本学が設立された。すなわち、(1) 新潟の地が中国、朝鮮半島、極東ロシアに近接し、米国やカナダと関係が深いことから、わが国とこれらの国々との社会・文化交流の中で活躍できる人物を育成する、(2) グローバルに構築され、利用されつつある、進歩の目覚ましい情報システムの知識と技術を習得し、この能力を社会のために役立たせ得る人物を育成する、という二つの目的を持って、平成6(1994)年4月に開学した。私立大学ではあるが、創設資金の主たるところは新潟市(1/2)及び新潟県(1/4)によるものであり、地域全体の公共的意志に支えられて設立された大学である。

開学14年目を迎えた現在も、武藤輝一理事長（学長兼務）のリーダーシップのもと、この建学の精神・基本理念を継承しつつ、加えて心温かく、人間性豊かな社会人を育てるべく、教養教育にも力を注いでいる。

### 2. 使命・目的

本学は前述の建学の精神・基本理念を踏まえ、学則第1章第2条に本学の目的を以下のように規定している。

- (1) 新潟国際情報大学は、教育基本法及び学校教育法に従い、その精神に則り、学校教

育を行うことを目的とする。

(2) 本学は、日本文化の理解の上に立ち、国際的視野のもと、情報文化の発展に貢献できる有為の人材たらしめる意欲あふるる青年を教育し、健全な心身を持つ、個性豊かな人間形成に資するを使命とする。

(3) 本学は自由主義・民主主義を重んじ、平和を希求し、和衷協同の精神を根本として運営される。

これら目的の設定の基礎となった開学の趣旨は、以下のとおりである。

本学は、人類の理想であり、現代世界の構造変化の機軸概念でもある、「平和」を奉じ、そのための日本及び日本人の貢献に資する有為な青年、人材の要請を目的として開学され、同時に、新潟地区における高等教育の普及要請に応ずべき責務を本学は有している。したがって、同地区における青年、社会人を含む、学問・知識を求める人々に広く開放すべく努力するのであって、その意味でコミュニティ大学の性格を強く持っている。

こうした外在的・内在的要請に対応して、本学は、国際化・情報化・地域化の3つの教育原理を基礎に据え、学部・学科の目標が定められている。

**情報文化学部**：本学には情報文化学部の1学部があり、世界文化としての情報文化の意味を理解し、情報文化の創造と発展に貢献することのできる人材を育成することを目的としている。本学部には、情報文化学科と情報システム学科の2学科がある。大学の理念に関連して総合的判断力、表現能力、合理的思考力を身につけるための科目、すなわち専門領域に進む前提として学ぶべき科目を「基礎科目」として位置づけている。また、それぞれの学科の専門領域を学ぶための土台となる科目からなる「共通科目」があり、国際関連科目と情報関連科目に大別される。いずれの学科の学生も、「基礎科目」「共通科目」とも一定以上の単位の修得が義務付けられている。更に、学生が自己認識と将来の目標を容易に確認できるよう「キャリア開発」「インターンシップ」「学外実習」の科目を設け、学生個々のキャリア（人生）設計をサポートしている。学生と教員とが直接話し合いながら講義を進めていく少人数教育は、授業そのものの理解度を高めるほか、コミュニケーション能力を高める等、人間形成のための重要な教育手法と考え実施している。

**情報文化学科**：北東アジア（ロシア、中国、韓国・朝鮮）やアメリカを含むアジア太平洋地域をはじめとする世界への理解を深めるとともに、国際社会の諸問題や地球的問題群への認識をもって積極的に国際社会に参加できる人材を育成する。また、国際化時代の高度教養教育という観点から、実践的英語（聞く、話す、読む、書く）を全学生必修とするほか、「専門科目」では、英語、中国語、韓国語、ロシア語のいずれかの言語を学び、それに基づいた異文化理解と国際理解を深めるために必要な科目によって構成されている。加えて、各国の提携大学に半期（4ヶ月）留学して単位を修得できる制度が整備されている。

**情報システム学科**：情報システムの企画・設計・開発・運用に携わり、あるいはそれを活用することで、情報社会の建設に貢献できる情報人を育成する。体験的学習の重視と少人数教育による演習の実施、地域社会・地域産業との連携の下での現実に立脚した教育、自主的な学習プランの作成などによる自発的学習意欲の涵養を特色としている。「専門科目」は、主に情報とシステム、人間と社会、経営と組織、コンピュータと通信、論理と数理の5分野によって構成されている。英語を全学生必修とするほか、カナダの提携大学において、情報英語の実践教育や情報産業企業見学・コンピュータ演習・講義を受講し（夏

期 5 週間)、単位を修得できる制度が整備されている。

### 3. 大学の個性・特色等

地域と共に歩み、時代の要請に対応し、新しい歴史を創造する。これを本学設立の基本姿勢とした、わが国初の「情報文化学部」構想は、既存の大学の常識を打ち破る新しい構想の大学であった。日本文化の深い理解の上にたった新しい世界文化ともいえる「情報文化」の創造と発展を期するものだった。

総合的判断力、表現能力、合理的思考力を養う基礎科目、更に異文化理解、情報対応能力、国際的視野を身に付ける共通科目など、理系・文系といった既成の枠組みにとられない教育・研究を行うユニークな学部学科共通教育課程が編成されている。グローバルな情報文化を基盤とし、より深く専門的な領域について学ぶことができることが大きな特色といえる。

本学は 1 学部（情報文化学部）、2 学科（情報文化学科、情報システム学科）で構成される収容定員 1,000 人の小規模校であり、地元新潟県からの入学生が 95%を越える極めて地域に根ざした大学である。前述したように、地域の要請に応え国際化・情報化に対応できる人材の育成を目標に設立された大学であり、平成 6(1994)年 4 月開学以来、定員の確保は継続されており、地元高校生の進学先として一定の評価を得ているものと考えられる。

大学の立地環境の特性を活かした言語教育・異文化教育や留学制度も、本学の特色ある教育と言える。基準 3 教育課程に詳細を記すが、対岸諸国（ロシア、中国、韓国、アメリカ、カナダ）に提携校を有し、それぞれの言語や地域を学び、半期（4 ヶ月）、または夏期 5 週間の留学を経て、4 年間で卒業できる海外派遣留学制度を整備している。この制度を利用して留学するもの、語学に関する資格試験に合格したもの、情報システムに関する種々の資格試験に合格したものなどに奨学金が給付されている。

また、学外実習（情報システム学科）は、開学時より準備を進め商工会議所等を通じ企業、団体から予め研修の内諾を得て、第一回生が 3 年次に進んだ夏から実施しており、特に情報システムの運用を実地で学ぶことにより、その後のより専門的な学習に繋げるための大きな役割を担っている。

情報文化学科では、専任教員 18 人中には外国籍の教員 4 人（中国国籍、韓国国籍、ロシア国籍、アメリカ合衆国国籍各 1 人）と、CEP（Communicative English Program）インストラクター 2 人（カナダ国籍、アメリカ合衆国国籍各 1 人）を配置し、国際化教育に力を注いでいる。情報システム学科では、専任教員 22 人中実務経験を有する教員が 14 人おり、情報システムの開発や利・活用状況など実際に即した教育が行われている。

少人数教育も本学の特徴のひとつであり、学生と教員との距離が近く、常にコミュニケーションが密に図られている。

また、演習等では、ひとり 1 台 PC（パソコン）が利用できるよう、IT 環境も充実している。学内どこでも無線 LAN によりインターネット接続が可能であり、授業以外でもレポート作成や情報収集など、いつでも自由に利用できるよう整備されている。